福知山

千年の森づくり

基本計画

令和4年3月　福知山市

福知山千年の森づくり

福知山市は、平成 18 年 1 月に 1 市 3 町が合併し、市域面積 552.6 ㎢の 7 割以上を森林が占めるようになり、豊かな自然・清涼なる水資源をはじめ、歴史・伝説など、後世に継承すべき多様で豊かな地域資源を併せ持つことになりました。

さて、令和4年3月に「福知山市自治基本条例」に基づき策定をしました「まちづくり構想　福知山」では、基本政策の1つに『市民一人ひとりが、自然、環境や地域資源を守り、生かし、次世代につないでいくまち』を掲げています。

この「福知山千年の森づくり基本計画」は、三岳山から大江山連峰にかけて国定公園として指定された区域を計画対象として平成21年に策定をしました。

市民の共有財産として守り育てるために、計画に基づき様々な施策を展開してまいりましたが、今までの取り組んできた施策を踏まえつつ、社会情勢の変化などを鑑み、本計画を次のステージへ進めるため、計画の改定を行いました。

本計画をもとに、市民の皆様と行政が連携した推進体制をつくり、持続的に取組みを続け、時代に合った施策の展開を行うことで、素晴らしい自然環境を次世代につないでいくとともに、市民の皆様が幸せを生きるための取組みの1つにしたいという想いでございます。

結びに、この計画改定にあたり、御協力をいただきました各関係の皆様に心から感謝を申し上げますとともに、今後、この計画の推進にあたりまして更に御支援、御協力をいただきますようお願い申し上げます。

令和４年３月

福知山市長　大橋一夫

目次

第1章　福知山千年の森づくり基本計画とは 1
第1節　基本計画策定の背景と位置づけ 1
第2節　「千年」の持つ意味と計画期間 3
第2章　これまでの取組みと成果 5
第1節　これまでの取組み 5
第2節　成果と課題 11
第3章　福知山千年の森づくり基本計画の基本理念と基本方針 15
第4章　実現に向けた取組み 17
第1節　森林整備 17
第2節　誘客 20
第3節　情報発信 22
第5章　実現に向けたロードマップ 24
第1節　全体スケジュール 24
第2節　持続的な推進体制 25
参考資料1　地域資源の特質 26
参考資料2　アクションプログラムアイデア 36
用語解説 43
「福知山千年の森づくり基本計画」改定に係る意見交換会参加者名簿 47

第1章 福知山千年の森づくり基本計画とは

第1節　基本計画策定の背景と位置づけ

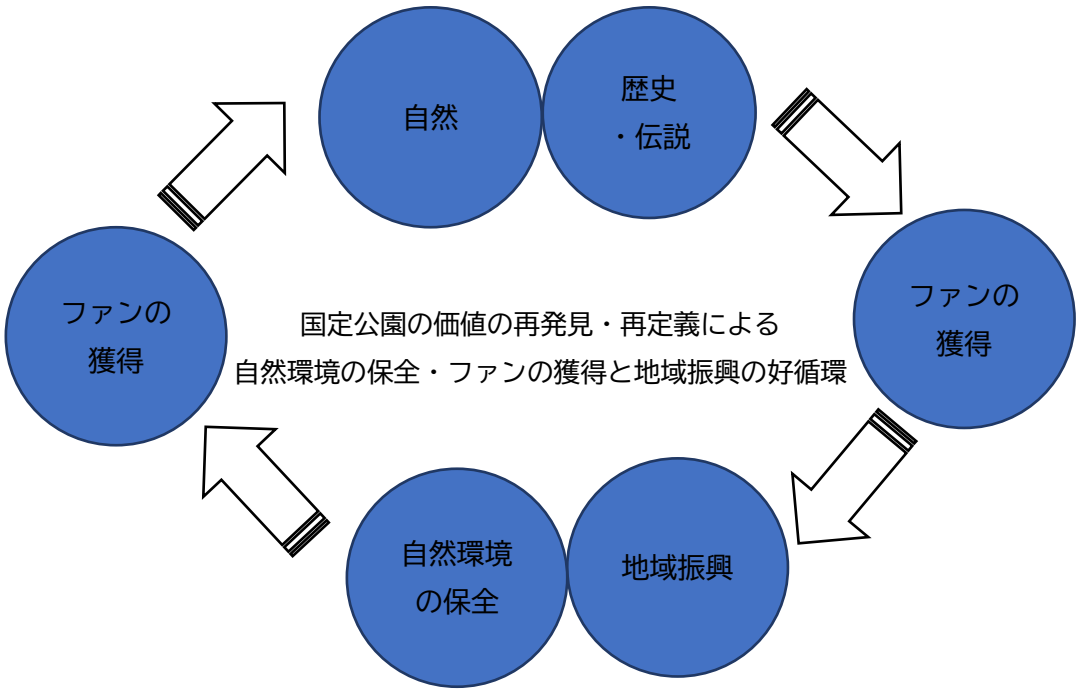
福知山市は、平成18年1月に1市3町（福知山市、三和町、夜久野町、大江町）が合併し、市街地を取り巻くように市域の約7割を森林が占めると同時に、豊富な自然・清涼なる水資源をはじめ歴史・鬼伝説など後世に継承すべき多様で豊富な地域資源を併せ持つこととなった。

そこで平成 19 年度に、福知山市における森林の持つ多様で豊かな資源を積極的に育成して活用し、人と自然との交流を進めて地域の活性化を図ることを目的に、循環型社会の構築も視野に入れて『福知山森林公園構想』を立ち上げるとともに、三岳山から大江山連峰にかけて新たに丹後天橋立大江山国定公園に指定された地域を重点地区として先導的に森づくりを推進するため、『福知山千年の森づくり基本構想』を策定した。

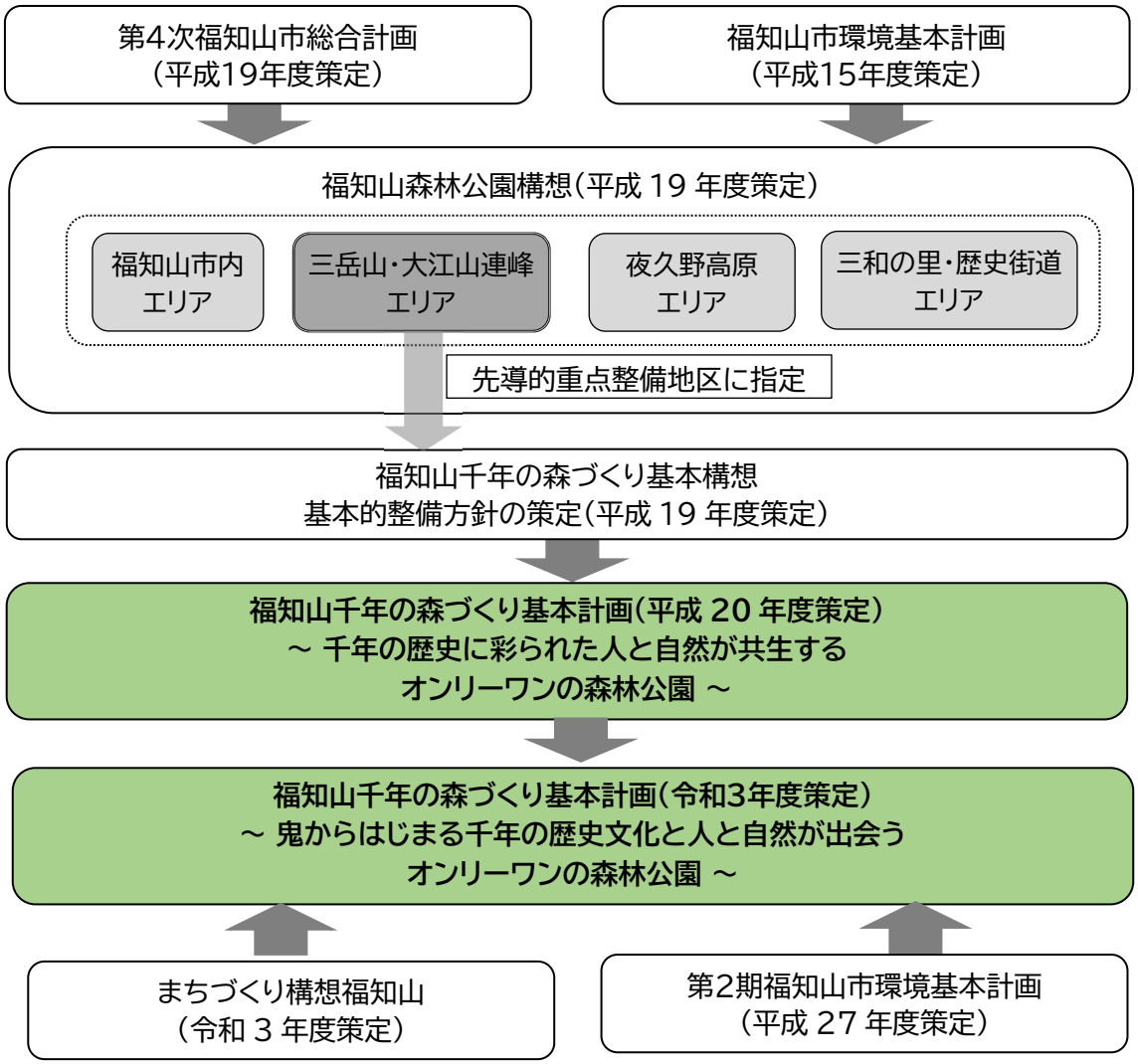
『福知山千年の森づくり基本計画』は、平成20年度に、基本構想に基づき、森づくりの整備の方向性、およびその推進体制を具体的に定めたものである。

基本計画の策定から約 10 年を経て、これまでの計画の実績や昨今の福知山を取り巻く環境・経済・社会の変化等を鑑み、『福知山千年の森づくり基本計画』を次のステージに進めるために、計画の改定を行うこととする。

新たな計画では、自然・歴史・伝説など様々な地域資源の魅力を発信することで誘客を図り、国定公園の価値の再発見・再定義を通じた関係人口を創出することで、自然環境の保全と地域振興へとつながり、また誘客へとつながる好循環の創出を目指すものとする。

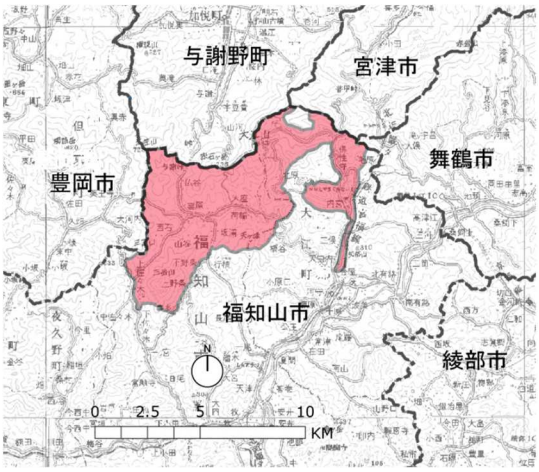


計画の位置づけ図



〇計画区域

本計画は、丹後天橋立大江山国定公園に指定されている三岳山・大江山連峰のエリアを対象区域とする。



第2節　「千年」の持つ意味と計画期間

(1)「千年」の持つ意味

「千年」という言葉は、「千年の時を超えて守り育てられてきた森」という意味と、「森づくりには長い時間が必要であることから、千年先を見据えた取組みが必要である」という森づくりの姿勢を表現するとともに、「千年先の未来へ引き継ぐ」という高遠な森づくりの理念を象徴している。

●鬼退治伝説から「千年」の時を超え、守り育てられた森

この森は、西暦 990 年に源頼光が渡辺綱や坂田金時ら四天王を従えて酒呑童子を討ち取った「丹波大江山」の鬼退治伝説から「千年」の時を超え、先人によって守り育てられ、恵みをもたらしてくれた森である。

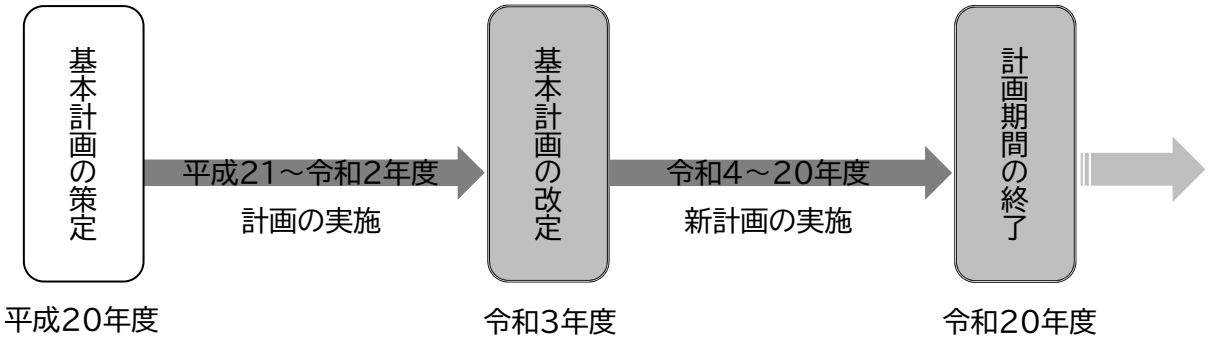
●「千年」という森づくりには長い期間がかかることを示す

この森は、種が大地の恵みを受けて芽生え、稚樹が太陽の光を浴びて大木になり、その大木がまた種を落とすという営みが繰り返され、数百年から千年にもおよぶ長い年月をかけてつくりだされたものである。

(2)計画期間

現行計画では、『福知山千年の森づくり基本計画』は、こうした長い年月をかけて取り組むべき森づくりの方向性について、計画期間を平成 21 年度から令和 10 年度として定めたものである。

本計画では、今までの計画の実績や社会情勢等の変化をふまえ、期間を延伸し、令和 20 年度までを計画期間とする。



(3)本計画の対象

本計画は計画区域を中心とした福知山市の市民、事業者、福知山市の取組みを対象とする。

参考：鬼伝説の里「大江」（出典：福知山観光協会）

日本の鬼の交流博物館

■酒呑童子の里
春は萌えるような新緑の中での森林浴、夏は渓流釣りに昆虫採集、キャンプに林間学校、秋は雲海を眺めながらのハイキング、冬は雪遊びと、四季折々に楽しみが多種多彩。

■日本の鬼の交流博物館
大江山の鬼・日本の鬼・世界の鬼・鬼瓦等たくさんの資料を展示。

元伊勢内宮皇大神社

■元伊勢内宮皇大神社
悠久の歴史を感じる深い森に囲まれた黒木の鳥居や茅葺・神明造の本殿。元伊勢内宮皇大神社は、全国的にも珍しい黒木の鳥居を持ち、三重県の伊勢神宮より54年も前にまつられたと言われている。

天岩戸神社

■天岩戸神社
天岩戸神社は、神々が天下った地にふさわしい岩戸渓谷。この幽境に本殿と神々が座したという御座石が鎮座。

第2章 これまでの取組みと成果

第1節　これまでの取組み

計画策定後、これまで森林の整備管理、施設の整備管理及びネットワーク化、地域の活性化事業、先行整備地区の設定、資源探索ルートの設置に取り組んできた。

(1)森林の整備管理

植生や土地利用、人工林率、国定公園の地種区分をもとに、6つのゾーンに区分しそれぞれのゾーンにおいて、管理手法を設定し、市民・企業ボランティア等と協働して森づくりを推進してきた。人工林の整備については、平成 31 年 4 月施行「森林経営管理法」に基づき別事業により展開している。

ゾーン設定から、月日がたっており、自然林、二次草地、里地里山ゾーンにおいては現況の調査が必要な状態である。整備管理方針については、これまでの計画の考え方を引き継ぐとともに、フィールド別に状況は異なることから、整備場所ごとに、必要に応じて調査をして、計画を立て、整備を行うことが重要である。

植樹については、市内全小学校での参加からスタートし、市主導や市民参加など様々な形態で実施されてきたが、平成 27 年を最後に活動が途絶えている。

モデルフォレスト運動については、活動のうち1つは継続的な活動となっている。

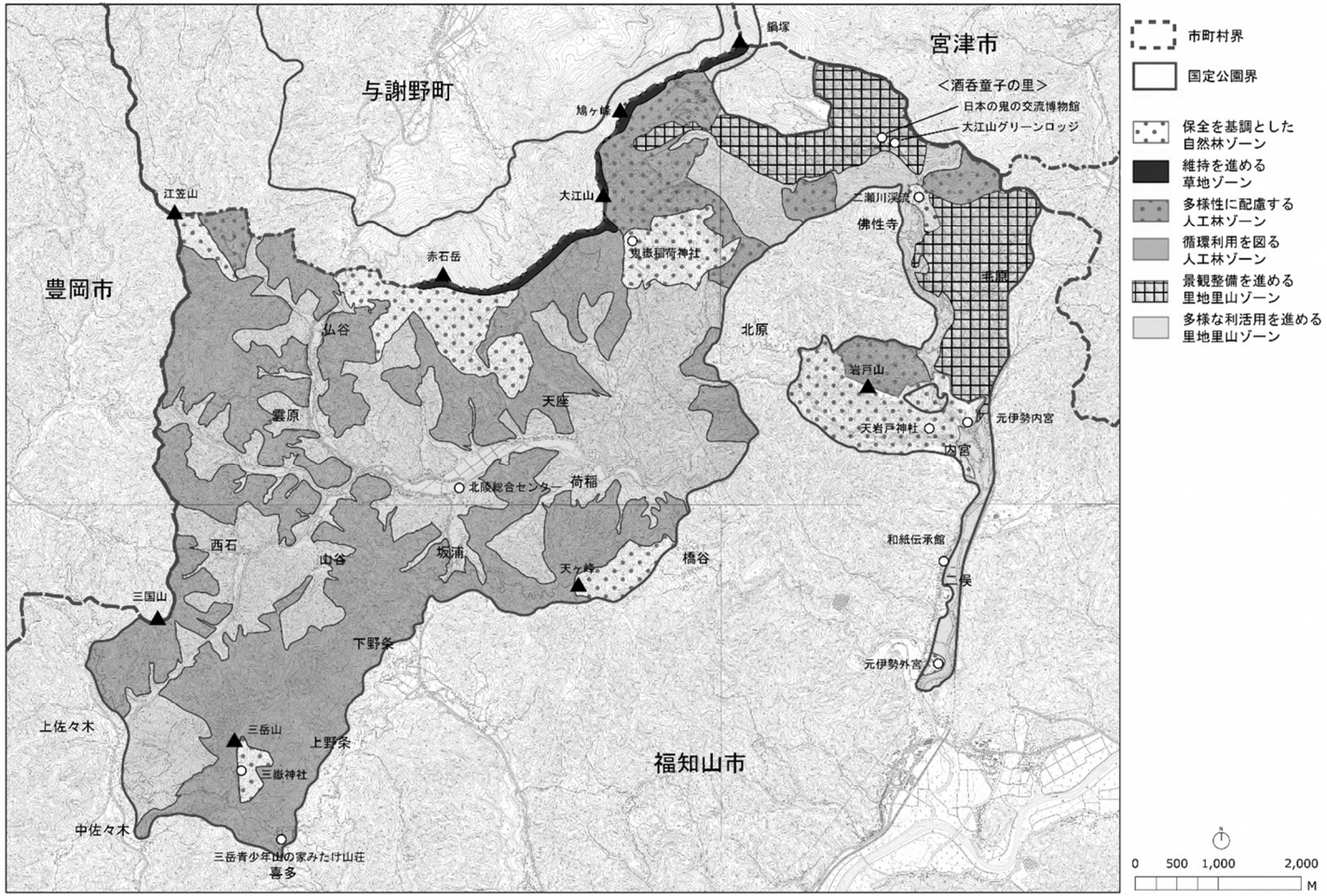
近年、実施した獣害柵の試験設置については、今後経過観察が必要な状況である。

森林整備・管理事業の実施状況

内容	数量	H21	H25	H30	R2
ケヤキ苗木の植樹　※	1,040 本	→ H21～23, 市内全小学校参加			
赤石岳植樹　※		→	H22～24、市による実施		
日向水木苗木の植樹	600 本		→ H26～27、市民参加		
国定公園クリーンデーの実施	10 回	→	→	H20～28、市民参加	
モデルフォレスト運動（三岳山）※			→	→ H27～R1、㈱スリーエス	
モデルフォレスト運動（毛原）※		→	H19～継続、エスペック㈱	→	→
獣害柵の試験設置	62 m²			● R1、市民参加	

※先行整備地区として設定されたエリア

森林整備管理のゾーン区分



ゾーン別の整備管理方針

ゾーン名	管理手法
①　保全を基調とした自然林ゾーン **＜対象＞** 元伊勢内宮のシイ林、岩戸山のカシ林等の常緑樹林、鬼嶽稲荷神社周辺のブナ林、大江山連峰のミズナラ林、三岳山のミズナラ・ブナ・シデが優占する落葉樹林、江笠山周辺のミズナラ林などの自然林のゾーン	現存する森林を保全することを基調とし、公園利用上の安全性を確保するための落枝や倒木の処理を除いて、人為の介入を極力排除する。また、過剰な利用による森林の損傷を予防するため、林内への立入を制限する。
②　維持を進める二次草地ゾーン ＜対象＞ 大江山連峰のススキ群落を中心とした二次草地のゾーン	大江山連峰の風景を代表するススキ群落の景観を維持するため、定期的に刈り払いを行い樹木の侵入拡大を抑制する。
③　多様性に配慮する人工林ゾーン **＜対象＞** 岩戸山北部の人工林、大江山山の家周辺の人工林、鬼嶽稲荷神社周辺の人工林、三岳山ブナ林周辺の人工林、江笠山周辺の人工林ゾーン	上記「保全を基調とした自然林ゾーン」の周辺にあって、景観的観点からも生物生息環境保全の観点からも、多様性に配慮することが求められるため、大規模な皆伐を避けるとともに、林床植生の育成を図るため適度な間伐を図り、大木の森づくりを進める。
④　循環利用を図る人工林ゾーン **＜対象＞** 上記以外の人工林ゾーン	経済林として資源循環を図るため、間伐―伐採―植林の好循環を推進する。 特に標準伐期齢を超えた人工林では、計画的に皆伐や択伐（エリアの状態よって判断）を進め、次世代の人工林を育成する。
⑤　景観整備を進める里地里山ゾーン **＜対象＞** 毛原から佛性寺、千丈ヶ原につながるコナラ林やアカマツ林、集落、棚田などが一体となったゾーンで国定公園の第2種特別地域を中心にしたゾーン	棚田や農地、水路の維持、竹林の拡大防止を図り、林内においてはかつてのように四季の花が生育するよう、下刈り等の森林整備を継続的に進め、市民がより森と触れあえる森づくりを目指す。
⑥　多様な利活用を進める里地里山ゾーン **＜対象＞** 上記以外のスギ・ヒノキ林、コナラ林、農地、集落地が一体となったゾーン	林地においては農産物・特用林産物等の生産および特産品（ケヤキ植林を含む）の栽培、環境学習、エコツーリズム、薪生産や炭焼きといった薪炭林としての利用など、里地里山に関わる多様な利活用手法を継続的かつ実験的に進める。また、野生鳥獣との共生を図るため、実の成る樹木の育成・植栽を進める。また、農地においては収益性の高い地域ブランド作物の栽培や、農業体験などの都市農村交流などを通じて農地の保全を図る。

（2）施設整備・改修事業

施設の整備については、一定推進されてきた。また、地域資源特性を活かした資源探索ルートについては、地域の協力もあり、11 ルートを設定したが、利用促進が課題となっている。

一方、施設のネットワーク化については今後も必要である。また、案内標識など、定期的に点検を行い、持続的に環境が維持できる取組みも必要である。

施設整備状況

施設	数量	場所	実施年度
多目的トイレ	1 か所	ビジターセンターほか	平成 21 年度 京都府により他に 2 か所設置
四阿（あずまや）	1 基	大江山山頂	平成 25 年度
案内標識	78基	大江山山頂 ほか	平成 21～29 年度
ベンチ	9基	大江山山頂 ほか	平成 23～24 年度
モニュメント	1 基	喜多	平成 21 年度
園路整備	85m	千丈ヶ滝探勝路	平成 28～29年度

(3)誘客

現行計画における取組み内容の着手状況については、完了したものや、一部着手したものなどそれぞれの進捗状況ではあるが、観光の振興の分野では、エコツーリズムの振興や千年の森ならではの祭り・催しの充実・創造は未着手の状態である。

また、都市農村交流による持続的な観光振興も先行整備地区等において着手されているが、多様な分野への拡がりやエリア全体の拡がりには至っていない状態である。

現行計画の着手状況

森づくり計画	内容	状況
森林の整備管理	・植生や土地利用、人工林率、国定公園の地種区分をもとに、6 つのゾーンに区分しそれぞれのゾーンにおいて、管理手法を設定し、市民・企業ボランティア等を協働して森づくりを推進	△
施設の整理管理及びネットワーク化	・拠点施設の新設、改修	△
	・便益施設の整備、改修	◎
	・施設のネットワーク化	×
地域の活性化	林業の振興	
	・人工林の育成と循環利用のための基盤づくり	○
	・新たな収入源の創出	△
	・地域材の有効活用・利用拡大	△
	・適切な獣害対策による木材資源の循環利用の促進	○
	農業の振興	
	・特産物づくりやブランド化の推進	○
	・農作物の販売機会の拡大及び地産地消の推進	○
	・適切な獣害対策による農家の生産意欲の向上	○
	・担い手づくり	○
	観光の振興	
	・観光振興に関する総合的な体制整備	○
	・エコツーリズムの振興	×
	・千年の森ならではの祭り・催しの充実・創造	×
	・都市農村交流による持続的な観光振興	△
先行整備地域の設定	・赤石岳周辺地区における森林整備	◎
	・毛原棚田周辺地区における里山及び農地の保全	◎
	・三岳山周辺地区における里山・農地の保全、人工林整備	◎
資源探索ルートの設置	・地域資源特性を活かした資源探索ルートについて、11 ルートを設定	△

◎:完了　○:着手(別事業により継続中)　△:一部着手　×:未着手

参考：福知山市を取り巻く誘客状況に関する数値

コロナ禍以前における、福知山市を取り巻く誘客状況は下記の通りである。

なお、新型コロナウィルス感染拡大の影響を受けた令和2年の観光入込客数及び観光消費額は、福知山市は、対前年比 20.1%減、38.6%減であった。

●観光入込客数

・平成 25→平成 30 年度／85 万人→93 万人　と定住人口の 12 倍

●宿泊と日帰り入込客数の比率

・宿泊と日帰り入込客数の比率（平成 30 年度）　1:4

●観光消費額（千円）日帰り・宿泊別

・宿泊の伸び率は＋32.2%

・消費額は、宿泊と日帰りの比率は 1:1

●外国人客数

・平成 25→平成 30 年度
／295 人泊→1,581 人泊

＋536%

	中国	香港	台湾	韓国	アメリカ	豪州	英国	仏国	タイ	シンガポール	マレーシア	その他
平成26年	118	13	52	29	41	7	3	0	5	4	19	306
平成27年	1,777	150	317	80	44	4	4	10	57	10	8	105
平成28年	831	40	138	54	51	23	44	37	21	5	11	1,326
平成29年	264	48	199	91	120	20	8	69	26	12	17	751
平成30年	479	80	297	219	110	81	15	21	8	13	14	244
令和元年	539	72	404	200	115	35	87	90	24	21	11	447
令和2年	24	15	27	10	29	2	1	4	11			382

（出典：「海の京都　DMO」観光マーケティング調査データ（一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社）、京都府 HP）

（4）推進体制

平成 21 年 11 月に福知山千年の森づくり協議会を設立し、平成 26 年度までは協議会が継続して実施されてきた。その後、福知山千年の森づくり懇話会が設置され、懇話会メンバーを中心に個別に植樹活動や山登り活動が行われてきたが、継続的な実施には至っていない。また、市域全域等への拡がりを持った展開にはなっていない状況である。

第2節　成果と課題

森林整備、誘客、情報発信に関する成果と課題を下記の通りとりまとめる。

(1)森林整備

○成果

- 全ての市内の小学生による植樹や市民参加による植樹など、一部、シンボル的な樹種の植樹が進んだ。
- モデルフォレストで一部間伐がなされ、先行整備エリアのうち、1 地区においては、継続した森林整備が行われている。

□社会情勢

- 気候変動影響や脱炭素化社会の加速化により、森林整備や木材資源の重要性がより高まっている。
- また、国では、生物多様性に関する新たな目標として、2030 年までに地球の陸と海の 30%以上を自然環境エリアとして保全することを目標とする「30by30」の達成に向けて制度設計が進められている。
- 企業は、脱炭素化に関する情報開示が求められており、今後、生物多様性への対応を非財務情報として開示しなければならなくなる可能性もあり、そのニーズは高まるものと考えられる。

●課題

- 計画区域全体での間伐等の森林整備には至っていない。
- ゾーン別に整備方針は定められているが、ゾーンのうち、どのエリアが優先度が高いかなどは明らかになっておらず、企業等多様な主体が関わりづらい。
- あわせて、森林の状態は多様であることから、エリア選定→調査→森林整備計画→マッチング等の一連の仕組みの検討が必要である。
- シンボル的樹種植樹が進んだが、継続性や全体の広がりとして課題があった。
- ゾーン設定としては、多様な利活用を進めるゾーンというエリアもあるが、木材の資源活用についてあまり取り組めていない。

福知山市大江町毛原、エスペック株式会社、福知山環境会議での取組みの様子
出典：(公社)京都モデルフォレスト協会

参考：気候変動影響

気候変動影響の将来予測として、2030～2050年には、平均で0.5℃～3℃気温が上昇する可能性、2081～2100 年には、平均 1℃～6度上がる可能性があるとされている。自然への気候変動による影響は下記の通りである。

＜自然への影響＞

●二ホンジカの分布拡大による植生の食害、森林生態系への影響

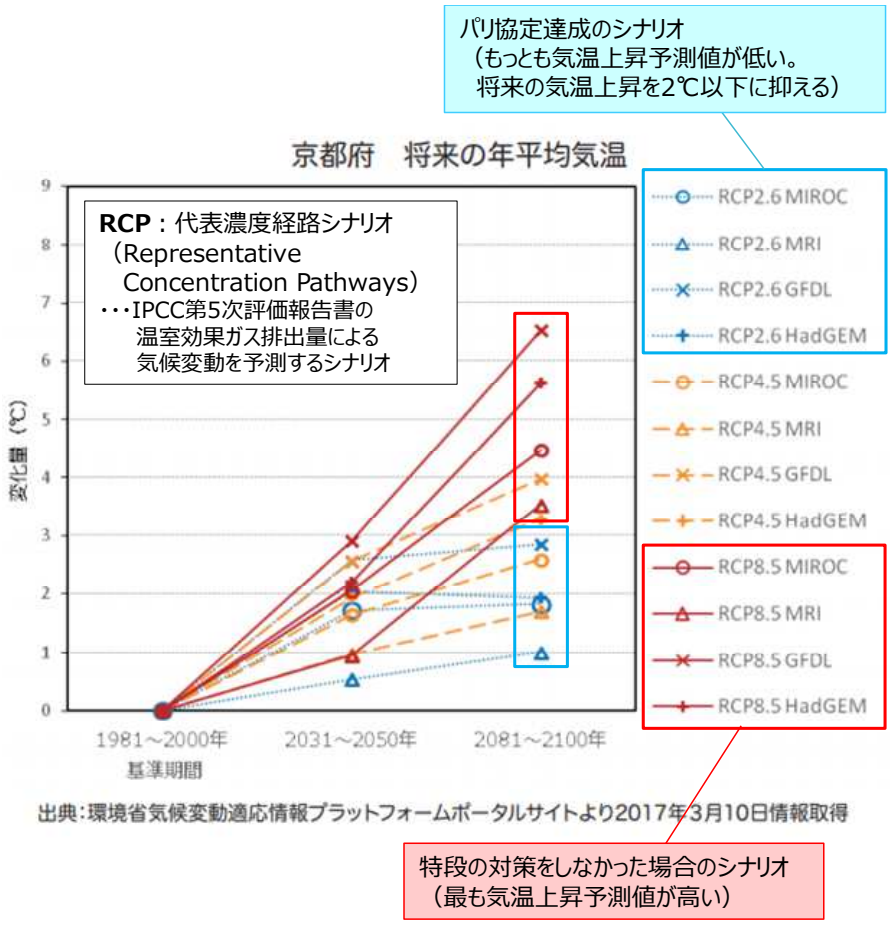
（R1 年度福知山市「シカ生息密度推定調査」の結果より、福知山市北部エリア（夜久野地域～大江地域）でシカ生息数が多い傾向）

●昆虫等の分布域の変化

（全国的に見るとナガサキアゲハ、ツマグロヒョウモンのチョウ 類、タイワンウチワヤンマのトンボ類も北上、分布拡大）

●植生の変化（ブナ林減少など）

●自然災害の増加 （京都府下の床下浸水・床上浸水件数～H22 まで：ほぼ 500 棟未満 →H23～：1,000 棟以上に増加）



出典：環境省気候変動適応情報プラットフォームポータルサイトより2017年3月10日情報取得

(2)誘客

○成果

- 大江地域については、日本の鬼の交流博物館等の拠点施設を中心に、利用客数・交流人口が一定増加した。
- 毛原地区における平成 9 年から実施されていた「棚田農業体験ツアー」は、平成 24 年からは、農業体験をより幅広い協力者で支え、里山全体の景観保全を図るため、「毛原の棚田『taikan』ツアー」と名称を改編。田植え、稲刈りには 100 人程度の人が毎年訪れている。

□社会情勢

- 海の京都 DMO が設立され(平成28年)、広域連携やインバウンドに力点を置き活動されている。
- 新型コロナウィルス感染拡大により、地域外の行き来が減少し、新たな旅のスタイルが求められている。
- 一方、コロナ禍を経て、身近な場所で屋外レジャーを楽しむニーズが高まっている。

●課題

- 観光に来た方が、森林に関わるきっかけが提供されていない。
- 日本の鬼の交流博物館等の拠点施設は、一部の登山客や歴史に関心を持つ方には利用されているが、当地域の自然、歴史、食等の豊富な地域資源のポテンシャルを一体的に活かしきれていない。
- 大江地域で新たに、地域組織「大江まちづくり住民協議会」が実施主体となった地域住民の自家用車(マイカー)による送迎サービス(愛称:「鬼タク」)がスタート(令和 3 年 7 月)しているが、観光移動に関する情報発信が出来ていない。

歴史・文化にまつわる地域の魅力や
大江のどぶろく

(3)情報発信

○成果

- 日本の鬼の交流博物館等の拠点施設等を中心とした発信や、海の京都 DMO による情報発信がなされた。

□社会情勢

- 年々、ソーシャルメディアの利用率は世代別に変遷するが、令和３年８月に発表された、総務省データによると、全世代で LINE の利用率は一貫して増加し、90%を超過。Facebook の利用率は減少し、Instgram の利用率は全世代で一貫して、増加しており、Twitter と同等の比率(42%)で利用され、LINE に次ぐ利用率となっている。

●課題

- 地域全体の魅力についての発信や SNS 等新たな媒体を活用した発信については進展していない。
- 個別の情報発信は進んでいるが、「千年の森」でも、福知山市の本エリアがすぐに検索上もヒットせず、この地域にしかないものの情報発信になっていない。誘客～森林整備につながる導線が出来ていない。
- 取組みが個人や地域の団体での取組みとなっており、広がりに限りがある。福知山市全体の知恵を活かしきれていない。

海の京都での大江山登山およびハイキングツアーの紹介ページ(出典:海の京都)

第3章 福知山千年の森づくり基本計画の基本理念と基本方針

〇基本理念

先人の努力により受け継がれてきた千年の森を次の千年へつなげていくためには、多様な人との関わりを創出し、継続的に森づくりに関わる人を増やしていくことが重要である。

あわせて、森づくりを通じて、森林保全だけでなく地域全体の持続可能性を高めていくことを目指し、基本理念を「多様な関わりによる千年の森づくりを通じた持続可能な地域づくり」とする。

三岳山・大江山連峰周辺の多種多様な「環境」・「地域資源」を組み合わせて「経済」・「社会」も結びつけることで、地域の人たちが自分たちの計画であり、参画してみたいと思える森づくり計画とする。

福知山千年の森づくりの基本理念

多様な関わりによる千年の森づくりを通じた持続可能な地域づくり

〇将来像

『福知山森林公園構想』では、将来像を「後世に語り継がれるオンリーワンの森林公園」と位置付けている。

今回改定する『福知山千年の森づくり基本計画』では、この考え方を踏襲するとともに、「千年」受け継がれてきた三岳山・大江山連峰地域の独自の自然や、歴史文化などの多様な地域資源を今後も保全・継承していく「オンリーワン」の取組みを目指す。

福知山千年の森づくりの将来像

鬼からはじまる千年の歴史文化と人と自然が出会うオンリーワンの森林公園

〇基本方針

基本理念および将来像を実現するため、次の3つの基本方針に基づいて森づくりおよび森と人の関係づくりに取組むものとする。

（1）森と地域資源と人との関係性を結びなおし、関係者を増やす森づくり

三岳山・大江山連峰周辺の地域資源は、その南方系と北方系の草や花、そして樹林やヤマセミ・アカゲラをはじめ 28 科 80 種の生息記録があるなど動植物が豊かであることが特徴である。

さらに、皇大神社（内宮）、豊受大神社（外宮）、そして、日室ヶ嶽は原生林におおわれた神霊降臨の神体山（主に神道において神が宿るとされる山岳信仰や神奈備（かむなび・神々が神留まる森林を抱く山）であり、山と人が近い関係が築かれていた。

また、鬼嶽稲荷神社、天岩戸神社など数多くの由緒ある神社が多く存在し、歴史文化資源が継承されており、多種多様な地域資源を有し、豊かな空間が広がっている。

千年の森の継承のためには、これらの地域資源を活かした、人との関わりを増やしていくことが重要である。

そのため、森と歴史等の地域資源と人との関係性を結び直し、関係人口の増加および地域振興につながる森づくりを推進する。

（2）気候変動影響や社会的ニーズなど変化に適応する森づくり

この間の森林を取り巻く環境は、プラスの面だけでなく、気候変動影響による災害の発生や獣害被害の増加（山林植生だけでなく、地域農業の被害など）も大きなインパクトであり、これらの危機への適応も必要である。

また、価値観や行動様式も変化する中で、対応課題やニーズも変化していくことが推測される。

そのため、長期的な視野でしなやかに時代の課題や潮目を読み、変化への備えや適応する森づくりを推進する。

（3）千年の森づくりを支える官民連携による持続的な態勢づくり

計画を実現していくためには、持続的な態勢および地域の方々の関わり、多様なステークホルダーを巻き込むための柔軟な運営が求められる。

あわせて、財源についても多様な資金を確保しながら取組みを進めることも重要である。

そのため、官民連携による持続的な態勢づくりに取り組む。

第4章 実現に向けた取組み

この地域独自の地域資源を活かし、これまでの実績や福知山市を取り巻く環境・経済・社会の状況を鑑み、誘客・地域振興・自然環境の保全につながる計画の実現に向けた取組みを示す。

第1節　森林整備

〇取組みの視点

①気候変動の影響への対応

人間活動を起因とする温室効果ガスの排出により、気候変動影響が顕在化している。気候変動がもたらす地球の変化は数世紀から数千年にわたる不可逆的なもので、とりわけ海洋、氷床、海面上昇の変化は後戻りできない状況になっていくと報告されている。

その気温の上昇幅や降雨強度の変動は、これからの行動により変化するものではあるが、どれだけ、これから温室効果ガス排出量を減らしたとしても、21 世紀末には 0.3～1.7℃の上昇になる可能性が高いと予測されている。

また、気候変動については、これまで以上のスピードで変化しており、生態系への影響も多大となっている。将来の気候変動は不確実性を含むことから、現在の状況だけでなく、将来の気候変動影響への備えとして、以下の視点が特に重要である。

＜視点＞
・希少植生の保全
・水害等の災害防止、国土保全機能の強化
・シカ害対策

②環境・経済・社会の統合的解決への貢献

森林は、人が関わらなければ維持することができない。地域の人だけでは支えきれないことから、地域外の人も含めた多様な主体を巻き込んでいく必要がある。

人の価値観も多様化しており、森林に関わりたいと思う理由も多様化すると想定される。また、持続可能な活動のためには、その活動を支える資金も重要となり、保全だけでなく、地域の生業や森林の価値を高めていく取組みも必要である。

そのような環境の中、持続可能な森林整備に向けて、以下の視点が求められる。

＜視点＞
・多様なメンバーを巻き込むための森林との関わりの明示
・経済林としての活用
・森林整備によるゼロカーボンシティへの貢献
・地域の生業づくり

森林と SDGsとの関係

注1：アイコンの下の文言は、期待される主な効果等を記載したものであり、各ゴールの解説ではない。
2：このほか、ゴール1は森林に依存する人々の極度の貧困の撲滅、ゴール10は森林を利用する権利の保障、ゴール16は持続可能な森林経営を実施するためのガバナンスの枠組みの促進等に関連する。ここに記載していない効果も含め、更にSDGsへの寄与が広がることが期待される。

出典：林野庁

○取組みの具体例

●植林地の間伐等適切な管理や再造林への投資

【データを基にした整備方針の明示と仕組みの構築】

- 森林の状態を把握し、それぞれのエリアにあった整備方針を検討し、整備を進めていくことが重要である。
- 市域の森林データ整備を進める中で、当エリアのデータも可能な範囲でオープンにし、森林に関わる多様な主体がデータをもとに、森林整備を進めていくことができるようにする。
- あわせて、地域の森林と多様な主体をマッチングする際には、調査・データ活用→整備方針→整備→検証・効果の情報発信というサイクルの試行を行い、持続可能な森林形成に資するロールモデルの創出が必要である。

【森林環境譲与税を活用した再造林や利用間伐・天然林への誘導、景観の維持】

- 人や財源にも限りがあることから全てのエリアを同じように進めていくことは困難である。そのため、データや人との関わりやすさなどの視点に基づき、森林環境譲与税等も活用しながら、再造林ゾーン、利用間伐をするゾーン、天然林への誘導ゾーンなど、そのゾーンの目的や将来像を提示しながら、森林整備を進める。
- 本計画は、丹後天橋立大江山国定公園に指定されている三岳山・大江山連峰のエリアを対象区域としていることから、森林景観の維持にも配慮を行う。

●希少植生の保全　－周辺部の適切な植生管理と遺伝子の攪乱に配慮した増殖－

- 森林の関わりとして、植樹等も進めてきているが、希少植生の保全のためにも、植樹等を行う際は、周辺部の適切な植生管理と遺伝子の攪乱に配慮した植樹を行う。
- 森林に関わる主体は、必ずしも森林や植生に詳しい人ばかりではないので、誘客時には、森林の学びや持続可能な森林形成に向けた情報もあわせて発信していく。

●シカ害対策　－計画的な捕獲等頭数管理や保護柵の試験設置・検証－

- 既存の獣害対策と連携をとりながら、本エリアにおいても計画的な捕獲等頭数管理を行う。
- 希少植生等においては、保護柵の試験設置や検証なども行う。

●森との触れ合いの増進

【カブトムシの森など子どもをターゲットとした森との触れあいの増進】

- 地域の子どもたちに森林に目を向けてもらい、次世代の担い手育成につながる取組みを行う。また、子どもたちをターゲットとしながら、周辺の大人たちもあわせて巻き込みを行う。

【モデルフォレスト運動の推進】

- 脱炭素化や生物多様性の保全の観点から、企業が森林へ関わる機会も今後増えると推測される。そのため、森林整備の重要なターゲットとして企業等との関わりを深めるため、モデルフォレスト運動の推進を行う。

【木材資源の活用】

- 森林保全だけでなく、木材資源の活用を促進し、多様な森林との関わりを創出するとともに、資源の循環や暮らしとのつながりの創出を行う。具体的には、針葉樹等や建材へ、天然林等については薪としての熱利用などの促進を行う。
- また、資源活用にあたっては都市部も一緒になり、知恵を集め、活用促進を行う。

第2節　誘客

〇取組みの視点

①　当地域の自然、歴史等の豊富な地域資源のポテンシャルを一体的に活かす

これまで、自然資源の保全や農業振興、観光振興など、それぞれ情報発信がなされて、取組みが進められてきている。また、施設整備やルート整備などの環境も整ってきている。一方、本地域の魅力は、自然に加え、鬼をはじめとした他のエリアにはない固有の歴史資源である。また、その風景は、百人一首に読まれるなど、古くから、多様な分野の中で、息づいていたものである。

そのため、誘客に向けて、それぞれ単発ではなく、千年の森を取り巻く地域の魅力を伝え、他では味わえない体験が出来る場という点を PR していくことが重要である。また、その視点は、新たなプログラム等を始める際も大事な視点として据えることが重要である。

また、地域資源だけでなく、地域の人も地域の財産であり、顔の見える情報発信や交流を進めていく必要がある。そのため、以下の視点が求められる。

＜視点＞

・自然、歴史、食等の文化の融合

・モノだけでなくヒトも

・自然体験、トレイルラン等も当地域独自のプログラムに

②　子どもたちをメインターゲットに

誘客をしていく際に、全方位での情報発信は、伝わりにくくなることから、核となるターゲットを定めていく必要がある。

森林づくりを、持続可能な地域づくりにつなげていくためには、森林づくりだけでなく、地域の未来の担い手に森林との関わりを伝え、関係性を育んでいく必要がある。

そこで、下記の視点に基づき、誘客を進める。

＜視点＞

・次代を担う子どもたちの健全な成長の場につながる誘客

③　当地域を愛するリピーターを重視する

森林づくりは一朝一夕には終わりません。そのため、誘客で呼び込んだ方々も出来るだけ長く、森林やこの地域に関わってもらうことが重要である。

そこで、下記の視点に基づき、誘客を進める。

＜視点＞

・何度でも訪れたくなる奥の深いプログラム

・年間を通じたプログラム

〇取組みの具体例

●新たなアクティビティプログラムの組成・受け入れ　ー福知山市独自のトレイルランー

・ 近年、森林でのアクティビティのひとつとして、トレイルランが各地域で取り組まれている。本エリアにおいても新たな森林との関係人口を増やしていくことも目的として、自然保全に資する新たなアクティビティなどの受け入れやプログラム組成を行う。

・ なお、その場合もメインターゲットである子どもを核としたプログラムや歴史を感じる取組み、隣接地域にはない取組みの検討を行う。

・ また、アクティブシティの取組みと連携し、健康づくりに寄与するプログラムを組成する。

＜プログラムイメージ＞

・ 子どもたちをターゲットにした歴史感じる「鬼ごっこ」

・ 障害者等誰もが参加できるトレイルラン

●自然・歴史・食を一体的に体験できるプログラム

・ プログラムを組成する際は、地域の自然だけでなく、歴史、食など他分野における地域の魅力も体験できるプログラムの組成を行う。

・ 地域等の専門家との連携や次世代の地域の専門家を育成する。

＜プログラムイメージ＞

・ 季節ごとのまるごと大江山体験プログラム

・ 農家民宿を活用した誘客やジビエ活用

●子どもたちをターゲットとしたプログラム

・ 子どもたちをターゲットとしたプログラムとして、生き物を核としながら、森林や地域の川、田畑等エリア全体の自然と触れ合うことができるプログラムの組成を行う。

＜プログラムイメージ＞

・ 生き物に触れるプログラム（例：カブトムシ発見、カブトムシのすみかづくり）

●拠点施設での取組み

・ これまでの取組みにより、施設整備等が進んでいる。地域にあるインフラ環境も活用しながら、誘客や情報発信につながる取組みを行う。例えば、施設名称の改称など、徹底した千年の森とのつながりを演出する。

＜取組み例＞

・ 関連施設の改称（例：大江山千年の森〇〇〇〇など）

第3節　情報発信

〇取組みの視点

①既存情報を「千年の森」で束ね、すぐに始める

現在、趣味等に関する情報収集方法は、インターネットからの入手となっている。また、すぐにどこでも情報が手に入る状態であることから、情報発信にはスピード感が求められる。そのため、出来ることからすぐに進めていく必要がある。

そこで、下記の視点に基づき、取組みを進める。

＜視点＞

・「千年の森」に関連する様々な既存情報をまずは一体的に活用・発信

②単発ではない継続的な情報発信

森林形成には長い時間がかかる。また、多様な楽しみ方や段階的な関わり方ができるのも森林の特徴である。

また、誘客の取組みの視点でも掲げたように「当地域を愛するリピーターを重視する」ことから、連鎖型の発信により、地域の魅力をまるごと伝えていくことが重要である。

そこで、下記の視点に基づき、取組みを進める。

＜視点＞

・連鎖（数珠繋ぎ）型の発信

③新たな情報ツールに取り残される人々に配慮する

多くの方が、インターネットを通じて情報を入手している状態であるが、本地域の顧客層を考えると、インターネットをあまり使われない高齢者の方々も含まれる。

また、情報発信ツールは刻々と変わっていくが、それにすぐに対応できる層と時間のかかる層と関わりは様々である。

そこで、新たな情報ツールなどは積極的に活用しながらも、下記の視点も考慮して情報発信を進める。

＜視点＞

・ターゲットとしている層がどのような情報ツールを活用しているのか

・新たな情報ツールに取り残される人はいないか（高齢者など）

〇取組みの具体例

●既存情報・媒体を活かした情報発信

【「千年の森」に関連する情報を 1 つの Web にまとめて発信 】

・ 現在、既に各団体等から発信されている千年の森に関連する情報を1つの Web ページ等でまとめて発信する。

・ なお、「福知山千年の森」が広がっていくよう、統一 CI（コミュニティアイデンティティ）を定め、ロゴ等の制作などを行い、コンセプトとしても視覚的にも統一デザインを行い、発信を行う。

【交通アクセスに関する統一的な情報発信】

・ 誘客およびリピーターになっていただくためには、安心してアクセスが出来ることが重要である。

・ そのため、既存の交通手段について、統一的な情報発信を行い、福知山千年の森へアクセスしたいと思った方が、苦労して調べなくても情報を入手できる環境を整える。

●来訪者も巻き込んだ情報発信

・ 情報発信ツールは、日々進化し、また多様になっている。そのため、IT技術やツール等も活用しながら、WEB メディア、ソーシャルメディアを組合せて、情報が伝わっていく連鎖の仕組みづくりを行う。

・ また、限られた人材での事務局運営が想定されることから、事務局だけが情報発信者になるのではなく、「メディアから消費者へ」、さらに「消費者から消費者へ」と伝播させていくような情報発信につながる誘客や森林整備に取り組む。

●Web、SNS 以外の情報発信の実施

・ インターネットでの情報発信が主流になりつつあるが、その他のメディア媒体を活用するからこそ届く方々もいることから、偏らず、テレビ、ラジオ、新聞等のメディアも活用し、情報発信に取り組む。

・ 立ち上げ段階は、取組み主体からの情報発信、次に参加者からの情報発信等を進めるが、将来的には、利用者との双方向のコミュニケーションも行い、リピーター増に貢献する取組みを進める。

実現に向けたロードマップ

第4節　全体スケジュール

	短期(1～2年)	中期(3～5 年)	長期(6 年～　目指す姿)
森林整備			
植林地の間伐等適切な管理や再造林への投資	・ データ整備 ・ データに基づいた整備方針検討、公開 ・ 企業が関われる仕組み・体制づくりや試行プログラムの実施	・ 企業等多様な主体も巻き込んだ森林整備 ・ J クレジット等、森林の価値の見える化 ・ 地域の人も、来訪者も森林整備に関わる	・ 森林の多面的機能の向上
希少植生の保全	・ 登山客等に伝わる保全方針(遺伝子かく乱配慮等)の検討と発信	・ 保護策 ・ 植樹 ・ 多様な主体の巻込	・ 希少植生が維持されている ・ 気候変動への適応が行われている
シカ害対策	・ シカの目撃情報を登山客等から集める ・ 地域と連携した捕獲	・ 重点エリアにおけるモデルアクションの実施	・ 計画的な捕獲管理
森との触れ合いの増進	・ ターゲット別森林ゾーニング(まずは、子ども、企業) ・ ターゲットを増やす	・ 木材資源の活用 ・ 地域の人が関わるふれあいの機会創出	・ 子どもから高齢者まであらゆる世代の人が森林に触れあえる空間がある
誘客			
新たなアクティビティプログラムの組成・受け入れ　ー福知山市独自のトレイルランー	・ 子ども向けで試行 ・ 年間プログラム組成	・ 運営体制組成 ・ 本格実施	・ 多様な参加者によるトレイルランが実施されている ・ トレイルラン参加者も福知山市の森林のファンになっている
自然・歴史・食を一体的に体験できるプログラム	・ 食、地域の人材の掘り起こし ・ プログラム案を関係者で検討 ・ 試行	・ 運営体制組成 ・ 次世代の地域専門人材育成 ・ 本格実施	・ 子どもから高齢者まであらゆる世代が参加できるプログラムがある
子どもたちをターゲットとしたプログラム	・ 試行 ・ 年間プログラム組成	・ 運営体制組成 ・ 本格実施	・ 福知山市の全ての子どもが森に関わり、学んでいる／学校教育等での展開
拠点施設での取組み	・ 名称を変える ・ サイン、のぼりなど PR	・ 施設維持管理や修繕チェックに寄与するプログラムの試行	・ 初めて訪れた人も「千年の森づくり」がまちのあちらこちらで感じられる
情報発信			
既存情報・媒体を活かした情報発信	・ 交通に関する情報発信 ・ 独自 HP 作成 ・ CI 戦略、ロゴ等		・ いつでもどこでもだれでも千年の森の情報を入手できる
交通アクセスの確保	・ 既存の交通情報の発信を強化(＃鬼タク)	環境にやさしいゼロカーボンドライブの推進	・ 自家用車でなくても不安なく訪問できる
来訪者も巻き込んだ情報発信	・ 統一＃を設定		・ 来訪者が積極的に発信してくれる
Web、SNS 以外の情報発信の実施	・ のぼり、サイン、グッズ制作 ・ 定期的なプレスリリースの実施	・ 双方向のコミュニケーションを創出する情報発信 ・ 定期的なプレスリリースの実施	
運営体制			
組織	・ モデルチェンジ ・ 関係者調整 ・ 新組織立ち上げ、部会組成	・ 部会が世話人を中心に、自主的な活動を行う	・ 地域と連携した持続的な組織運営の確立
事務局	・ 官民連携による事務局 ・ 既存組織事務局と兼務	・ 専従スタッフ確保 ・ 多様な人材が働く	・ いきいきと若者や高齢の人が働く
資金	・ 事務局は一部市が支援 ・ プログラム毎のクラウドファンディング試行		・ 多様な資金による運営

第5節　持続的な推進体制

〇方針

●既存の推進体制はいったん解消(リセット)し、既存の団体等を最大限活かし、地域側を中心とした地域・市連携型の持続的な推進体制をつくる。

●地域内外の多様な人々が関われるようにする。

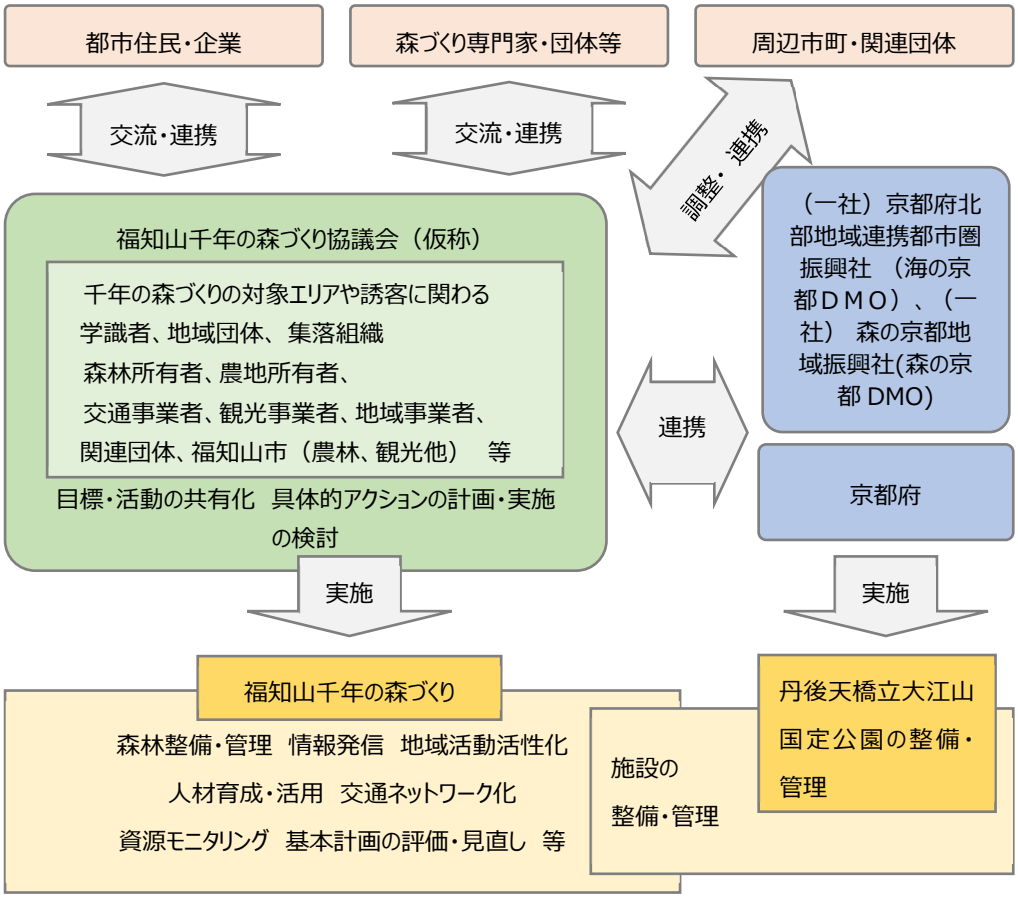
●時間の経過とともに、順次新たな担い手に引き継げるようにする。

〇推進体制

具体的には、千年の森づくりの対象エリアに関わる地域組織、団体、活動している事業者や誘客に関わる団体、事業者等と市等が連携する体制((仮称)福知山千年の森づくり協議会)をつくり、官民連携により、計画から実行までともに推進する。

また、市は、農林関係担当だけでなく、観光・交通・教育等各分野と連携し取組みを行う。

推進体制のイメージ図



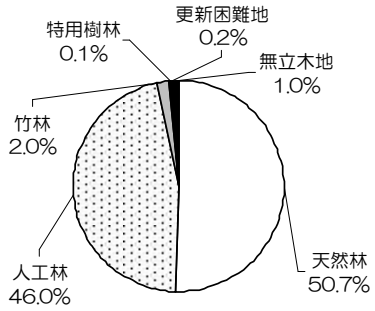
参考資料1　地域資源の特質

計画区域には、地域の人々や市民をはじめとした多くの人々の努力によって、全国に誇れる素晴らしい地域資源が継承されている。特筆すべき資源を次に掲げる。

〇自然資源

「福知山千年の森づくり」計画区域面積４，774ha のおよそ8割を森林が占めており、豊かな森林資源が存在する地域となっている。

■千年の森の林種別構成



森林のおよそ 51%を天然林が占めており、鬼嶽稲荷神社周辺のブナ林や、鬼嶽稲荷神社から大江山（千丈ヶ嶽）山頂近くにかけて分布するミズナラ－リョウブ林、元伊勢内宮のシイ林、岩戸山のウラジロガシ林、三岳山山頂付近のシデ林、江笠山山頂付近のクリ－ミズナラ林などの自然林のほか、人と森の共生の歴史の中で育まれてきたコナラやアカマツを主体とする里山（二次林）から構成されている。

一方、スギやヒノキ、アカマツなどの人工林もおよそ 46%と多く、「福知山千年の森づくり」計画区域らしい森を中心とした循環型社会づくりに欠かせない木材資源や木質エネルギー資源も豊富に育成されている。

また、大江山連峰の稜線付近にササやススキなどの草原が分布しており、大江山を特徴づける景観を形成している。

鬼嶽稲荷神社のブナ林

内宮のシイ林

ウラジロガシ林がある岩戸山

里山二次林（上佐々木）

大江山山頂のススキ草地

鍋塚のササ草地

こうした森が地域の美しい景観をつくりだし、貴重な動植物を育んでいる。

超塩基性岩である蛇紋岩やカンラン岩が大江山連峰の尾根筋に分布していることがこの地域の特徴である。蛇紋岩地帯ではヒュウガミズキやマルバマンサク、カンラン岩地帯ではタンゴグミやシモツケといった固有の植物が確認されている。

また、昆虫ではウスバシロチョウ、ギフチョウ、オオムラサキなどの生息が確認されている。

計画区域の地区別にみた地形や植生、貴重な動植物は下表のように数多く確認されており、これらが「福知山千年の森づくり」計画区域を代表する貴重な自然資源である。

■特殊な景観と貴重な動植物

地区	地形	植生	植物	動物
大江山連峰	・大江山連峰の小起伏地形	・鬼嶽稲荷神社のブナ林 ・大江山のミズナラ－リョウブ林 ・ササ群落 ・ススキ群落	・タンゴグミ＊ ・ムラサキ ・オキナグサ ・ナンバンギセル ・ヤマイバラ ・キキョウ	・エゾハルゼミ ・アカエゾゼミ
二瀬川渓流	・二瀬川渓流の峡谷		・ヤマイバラ ・ミヤマノキシノブ	
元伊勢内宮 岩戸山		・元伊勢内宮のシイ林 ・城山（岩戸山）のカシ林	・アサダ ・ヨウラクラン ・ムギラン＊ ・ミスミソウ＊ ・カヤラン ・エビネ ・ヤマイバラ	・ダルマガエル ・ハコネサンショウウオ＊ ・ヒダサンショウウオ ・オオムラサキ
三岳山		・シデを中心とした落葉広葉樹林	・ミスミソウ＊ ・エビネ ・ヒュウガミズキ	・ギフチョウ

参考資料：平成 16 年度　自然公園区域の拡大・新規指定調査報告書（財団法人　国立公園協会）

＊京都府レッドデータブック絶滅危惧種

また、福知山十景色に選ばれている奇岩と清流が織りなす美しい景観を見せる「二瀬川渓流」、鬼嶽稲荷神社から素晴らしい雲海が望める「大江山連峰・ブナの原生林・雲海」は多くの人々を魅了する景観である。

二瀬川渓流

鬼嶽稲荷神社からの雲海

○歴史文化資源

歴史文化資源としては、全国的にも有名な「丹波大江山の鬼退治伝説」、「元伊勢伝説」があり、福知山十景にも選ばれている元伊勢三社（元伊勢内宮、元伊勢外宮、天岩戸神社）、古代から修験の山であった三岳山周辺にある「覗き岩」や「尾根の立岩」、金光寺や天寧寺などの修行の場となってきた寺院、無形民俗文化財である「天座の田楽」や「野条の紫宸殿田楽」等の伝統芸能、伝統工芸である「丹後二俣紙」など、千年の歴史に彩られた数多くの歴史文化資源が継承されているとともに、「毛原の棚田景観」など、人と自然との共生によって美しい文化的景観が育まれている。

また、長い歴史の中で人々に守り育てられてきた三嶽神社のケヤキを初めとする多くの巨樹が福知山市の天然記念物に指定されており、悠久の時間の経過を伝えている。

元伊勢内宮

元伊勢外宮

天岩戸神社

天寧寺

天座の田楽

野条の紫宸殿田楽

三嶽神社のケヤキ

八幡神社のウラジロガシ

有徳神社のカツラ

〇利用施設

「福知山千年の森づくり」計画区域およびその隣接地域には、「グリーンロッジ」や「日本の鬼の交流博物館」などからなる「酒呑童子の里」が計画区域の拠点施設となっており、宿泊や文化体験、レクリエーションなどの多様なニーズに応えている。

主要道路沿いには和紙づくり体験ができる「和紙伝承館」や、地域の特産品や農産物を販売する「里の駅みたけ」などがあり、集客拠点となっている。

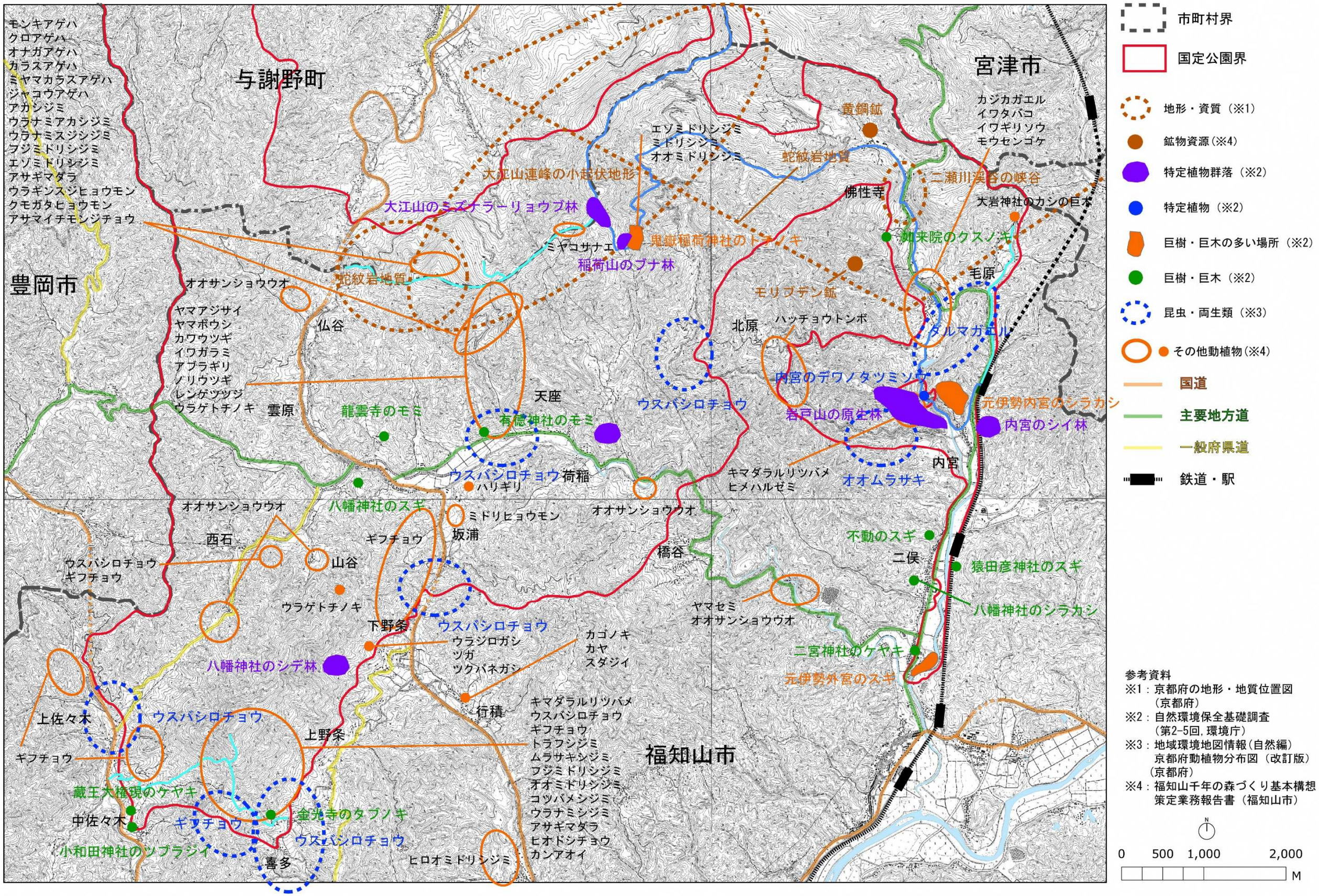
グリーンロッジ

日本の鬼の交流博物館

和紙伝承館

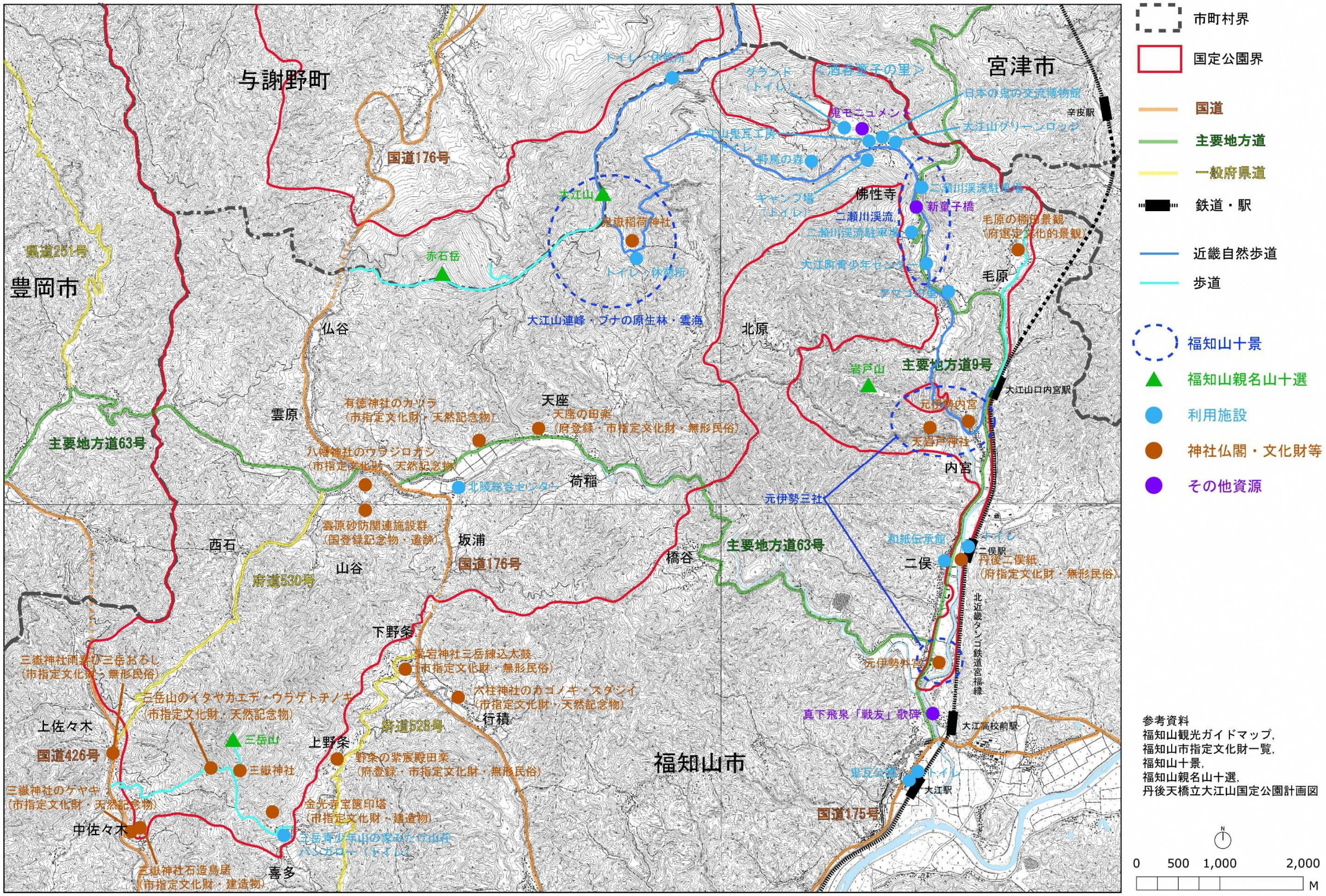
里の駅みたけ

○自然資源の分布



参考資料
※1：京都府の地形・地質位置図（京都府）
※2：自然環境保全基礎調査（第2-5回，環境庁）
※3：地域環境地図情報（自然編）京都府動植物分布図（改訂版）（京都府）
※4：福知山千年の森づくり基本構想策定業務報告書（福知山市）

○人文資源の分布



参考資料
福知山観光ガイドマップ，
福知山市指定文化財一覧，
福知山十景，
福知山親名山十選，
丹後天橋立大江山国定公園計画図

○自然資源の状態

鬼嶽稲荷神社周辺の自然林、元伊勢内宮のシイ林、岩戸山のウラジロガシ林は既に極相に近い状態にあり、三岳山山頂付近のシデ林、江笠山山頂付近のクリーミズナラ林などについても自然度が高い森林で、これらの森では現状を保全することが求められている。また、大江山稜線付近には、ススキ草地が広がっているが、茅場として維持してきたものと想定され、自然状態の草地ではないことから、低木の侵入を防止するために草刈り等の管理を継続的に行っていかなければ森林化する可能性が高い。

成熟したブナ林

ミズナラ－リョウブ林

ススキ草地

低木林

また、里山は燃料革命後放置された状態にあるが、多様な生物の生息場所ともなっている。しかしながら、ナラ枯れの進行や竹林の拡大など、里山の多様性や里山景観の劣化が進行しており、里山の管理やタケの間伐、タケの拡大防止のための根切りなどの適切な管理が必要になっている。

里山二次林（上佐々木）

タケが侵入したスギ人工林（上佐々木）

〇人工林の状態

福知山市全域の人工林の林齢構成を見ると、51 年生以上の面積が多く、林齢構成に大きな偏りが見られる。

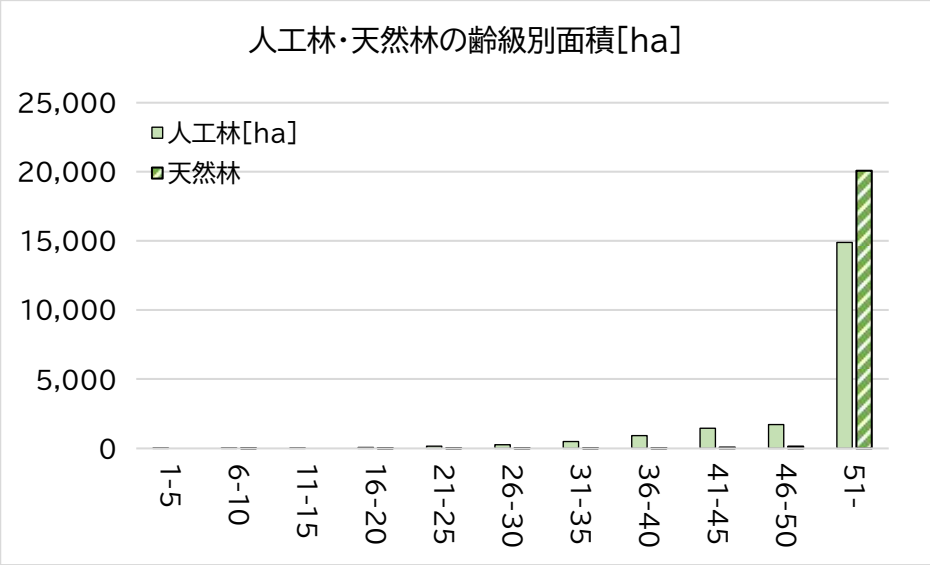
また、近年は山元立木価格の低下・低迷により、除間伐が十分に行われていない人工林が増加している。早急に間伐を実施しなければ林木の成長が阻害され木材資源としての質が低下するだけでなく、表土の流出や斜面の崩壊が危惧される。また、景観面や水資源のかん養といった環境面からも適切な管理が必要である。

これらの利用可能資源の有効利用を図るとともに、次世代の人工林資源を育成していくことも必要であり、地域材の利用促進や木質エネルギーとしての利用拡大などの取組みが求められている。

さらに、シカ等による植林木への食害などの獣害が深刻化しており、人工林の循環利用のためには、斜面上部に実の成る広葉樹の植栽や継続的な野生動物の生息数調整を行うなど、多様な獣害対策の推進が必要である。

一方、人工林の中には、土壌や傾斜条件から将来にわたって木材資源林として管理していくことが適切でないと考えられる林分もある。例えば、条件不利地を中心に行われた分収造林では人工林として成林せず、次第に広葉樹が侵入している森林もある。

こうした人工林については資源の循環利用林としてではなく、水土保全などの環境機能を重視した針広混交林への転換等を図る必要がある。



出典：福知山市森林整備計画（上記グラフは福知山市全体）

○農業振興

「福知山千年の森づくり」計画区域は、森林の割合が高いことからも分かるように、農地が山間の谷や斜面にあり、概して一区画当たりの農地面積が小さく、生産性の高い少品目大量生産型の農業には不向きである。これに加え、担い手の高齢化が進行していることから、農地を維持していくことが困難な集落も見られる。

多品種少量生産で付加価値の高い複合型農業経営を進め、農家収入の向上と安定を図ること、およびそれによって次世代の農業の担い手を確保していくことが必要とされている。

棚田オーナー制度などの導入による農地保全に向けた動きがみられるが、こうした動きを持続的に他地区へと拡大したり、森づくりの活動にもつなげていくことが必要である。

棚田農業体験ツアーの様子

さらに、近年は農作物への獣害が深刻化しており、様々な取組みがなされているが、引き続き野生動物との共生をどのように図るかを検討していく必要がある。

○観光振興

「福知山千年の森づくり」計画区域においても、体験型観光の拠点となる宿泊施設があるが、その利用状況を見ると全体に利用者数が横ばいか、やや減少傾向にある。このため、旅行者のもてなし方の改善などの中核施設の機能強化、集客の拡大策が必要とされている。

なお、新型コロナウィル感染拡大前においては、「日本の鬼の交流博物館」は来客数が年々増加、また、現在、来客数は減少しているが、一定数を維持している状態である。

こうした既存施設の利用者を拡大したり、森づくりにつなげていくためには、特に拠点施設となっている宿泊施設を中心に、地域の食材を活用した食事の提供や、豊かな自然資源や歴史文化資源を活用したソフト事業等の新たな取組み方策を検討することが重要となる。また、観光客の受入体制づくりを進めるとともに、観光資源となる自然資源や歴史文化資源の保全と活用を推進する必要がある。

施設利用者数

施設名		H27	H28	H29	H30	R1
日本の鬼の交流博物館		7,725	7,935	8,221	10,410	7,846
大江町和紙伝承館		974	899	636	592	760
北陵地域公民館・体育館利用状況	公民館	2,673	1,741	1,948	810	808
	体育館	2,900	2,525	2,808	894	774
	利用者数	5,573	4,266	4,756	1,704	1,582
大江地域公民館		3,868	4,185	4,119	7,881	6,710
大江山鬼瓦工房利用状況		301	499	615	331	268

参考資料2　アクションプログラムアイデア

意見交換会において、提案をいただいたアクションプログラムアイデアを以下に示す。今後は、これらに取り組んでみたいと思う地域の方々や団体の方々等と議論を行い、実際のアクションを検討していくことを想定する。

●企業と連携した自然環境保全（OECM）制度と連携した森林整備活動

重点分野：森林整備／誘客／情報発信
ターゲット：企業
取組み背景や目的

- 現在政府では、2030 年までに地球の陸と海の 30%以上を自然環境エリアとして保全することを目標とする「30by30」の達成に向けて制度設計が進められている。
- 企業側は、脱炭素に続き、生物多様性への対応を非財務情報として開示しなければならないルールが数年中に求められるようになる（SBTn や TNFD※）。特に長田野工業団地に立地する企業は上場企業が多く、非財務情報開示は必須。工業団地の近隣の河川の上流にあたる森林での保全活動は水リスクへの対応と、地域のエコロジカルネットワークへの貢献にもつながる取組みである。

実施内容

- 福知山千年の森づくり基本計画の中で国定公園の保護区に該当しない森林や里山・里地に対し、行政・事業者・市民が協働で保全をできる仕組みを構築する。
- 企業に対しては一定の評価（CO_2 固定量や、水源涵養便益・土砂流出防止便益・貯水量・水質浄化量の効果などを示す）やインセンティブ（市からの表彰制度等）を与えることで、企業が現在求められている生物多様性への貢献に寄与する取組みとする。
- 2030 年達成目標として着手を行う。

想定する実施ステップ

- 企業が関わることができる森林ゾーンの選定
- パートナー企業の募集・発掘
- 調査に基づく、将来の森林像と効果検証のための目標の検討および活動計画づくり
- 効果を見える化するとともに、市は企業を表彰するなどの取組みを広報

※SBTn：Science Based Targets (SBTs) for Nature は、バリューチェーン上の水・ 生物多様性・土地・海洋が相互に関連するシステムに関して、企業等が地球の 限界内で、社会の持続可能性目標に沿って行動できるようにする、利用可能な 最善の科学に基づく、測定可能で行動可能な期限付きの目標である。
※TNFD：Task force on Nature-related Financial Disclosure（自然関連財務情報開示タスクフォース）のこと。パリ協定、ポスト 2020 生物多様性枠組、SDGs に沿って、自然を保全・回復する活動に資金の 流れを向け直し、自然と人々が繁栄できるようにすることで、世界経済に回復力をもたらすことを 目指す。

●脱炭素推進森林整備

重点分野：森林整備／誘客／情報発信
ターゲット：企業
取組み背景や目的
・　世界的に SDGsやゼロカーボンの達成に向けて様々な取組みが行われる中で森林整備の重要性は再認識されていくと考えられる。
・　生産森林組合所有の森林が多く、一定の管理を行われている場所などで、資金調達や国定公園の発信を目的に今ある制度の「J クレジット」を活用できる仕組みをつくり二酸化炭素の吸収を企業へ売却する。
実施内容
・　森林整備を進め、J クレジットの創出を行い、資金循環や市内企業の脱炭素化を図る。
想定する実施ステップ
・　森林整備所有者への働きかけ
・　仕組み化および企業とのマッチング

●グリーンロッジでテレワーク体験からワーケーションへ

重点分野：森林整備／誘客／情報発信
ターゲット：市内及び近郊の社会人
取組み背景や目的
・　テレワークが進む中でどこでも仕事ができるようになり、ITの職種を筆頭に会社や自宅でない場所で仕事が出来るようになってきた。
・　一方、中小企業を中心にテレワークに一歩踏みさせない企業もいることが想定され、市内立地大学の情報学部等や大学院等との連携により、グリーンロッジを拠点にテレワークの体験の場を企業向けに展開する。
実施内容
・　中小企業へのグリーンロッジを拠点としたワーケーションプランの組成。バケーションの時間では他のプログラムを体験してもらい、国定公園のファン創出に加え、休日の子ども向けイベントへの参加も併せて狙う。
想定する実施ステップ
・　施設整備
・　プランの組成、地域事業者等へのモニターツアー実施
・　検証を経て商品化

●森林×GX（グリーントランスフォーメンション）

重点分野：森林整備／誘客／情報発信
ターゲット：市内及び近郊の親子、学校行事
取組み背景や目的
・　今までは交わることがあまりなかった「森林」と「デジタル」だが、近年のデジタルの高度化により林業分野でもデジタルの活用が進められており、令和4年度の林野庁予算でも「新しい林業」などが位置付けられている。
・　そういった中で林業への活用の他にも森林とデジタルの融合を押し出し、より多くの人に関わってもらうことが出来る森林づくりを目指す。
実施内容
・　伐採作業の AR による体験、空飛ぶ車による観光、地上型レーザ計測による林業などの体験プログラムを組成
想定する実施ステップ
・　実施可能なデジタル技術等の洗い出しまたは実証フィールドとして公募
・　地域の子ども向けのプログラムを組成

●再造林を機会とした子どもたち向けの植樹体験による郷土愛・森林愛の醸成

重点分野：森林整備／誘客／情報発信
ターゲット：子ども
取組み背景や目的
・　市民に対しても、植樹などに携わる機会はなかなかないのが実情である。
・　また、今後、森林環境譲与税等により、森林整備が進む中で、皆伐対象となり、更新が予定されている森林も出てくると想定される。
・　あわせて、子どもの頃の森林での植樹体験は変えがたい体験であり郷土愛や森林愛を育むことを目的とする。
実施内容
・　皆伐対象の植樹のタイミングにあわせて、子どもたちをターゲットとしたプログラムを森林整備事業者へ働きかけを行い、子どもたちを対象とした植樹体験プログラムの実施を行う。
想定する実施ステップ
・　森林整備事業者への働きかけと試行プログラムの組成
・　試行的に、子どもを中心とした市民向け試行プログラムを実施
・　試行的にプログラムを試行する中で、段階的に学校教育現場との調整し市域全域への取組みとして仕組み化

●みんなで公園で鬼ごっこ

重点分野：森林整備／誘客／情報発信
ターゲット：市内及び近郊の親子、学校行事
取組み背景や目的
・　子どものころはみんな遊んだ鬼ごっこと鬼退治伝説、国定公園という地域の資源をむすびつけた取組みを行い、子どもたちが地域文化と森林に関わることができるプログラムを組成する。
実施内容
・　子どものころはみんな遊んだ鬼ごっこを国定公園で 1,000 人 vs1,000 人の規模で行う。
・　鬼退治伝説も絡めた計画を行う。
・　冬はフィールドを狭め、スノーシューで氷鬼ごっこをするなど季節ごとの森林を楽しむ。
実施ステップ
・　地域団体等と実行委員会を組成
・　まずは地域の子どもたちを対象に小規模なプロジェクトとして試行実施
・　その後、近郊の親子や学校等へも声掛け本格実施
・　将来的には通年を通じた取組みとする

●鬼ごっこ（大江つながり）雪合戦

重点分野：森林整備／誘客／情報発信
ターゲット：親子　or　女性3人グループ対抗
取組み背景や目的
・　鬼、閑散期となる冬の誘客企画として開催する。
実施内容
・　鬼のニット帽を被り、鬼のコスチュームで雪合戦を行う。（コスプレ要素も入れる）
　＊雪玉の数を1試合で〇〇個と予め決めておく。
　＊トーナメント形式（1対1　or　3対同時）にて実施。
　＊鬼のオブジェに雪玉を当てるゲームなども展開
実施ステップ
・　地域団体等と実行委員会を組成
・　まずは地域の子どもたちを対象に小規模なプロジェクトとして試行実施
・　将来的には通年を通じた取組みとする

●大江山フォトロゲイニング大会の実施

重点分野：森林整備／誘客／情報発信
ターゲット：大人から親子のファミリーまで
取組み背景や目的
・　鬼モニュメントをはじめとした歴史・文化的な資源は多様であるが、多様であるがゆえに、来訪者が自ら情報を集めて、回るのは困難である。
・　そこで、イベントに参加することで、地域まるごと自然も歴史も食も味わえるきっかけとする。
実施内容
・　地域の多様な魅力を実感するためのプログラムを地域で実行委員会を組成し、実施を行う。
・　写真をもってもらうというイベントを通じて、来訪者からの情報発信への誘導も行う。
＜プログラム案＞
・　鬼伝説の大江山周辺をフィールドとし、鬼伝説にまつわるポイントから鬼モニュメントをはじめ歴史・文化的フォトポイントを出題に設定し、参加者は、指定された時間内にコース上のチェックポイントを見つけ写真撮影してくる。
・　所要時間と撮影された写真の正解有無による得点方式。チェックポイントは任意の順番で回ることができる。走っても、のんびり歩いても良し。各フォトポイントの写真を撮って高得点を目指す競技。
・　京都府民のみなさんにかぎらず、全国のみなさんに「大江」を知り、森林自然の中で楽しんでもらうフィールド体験イベントを実施する。
実施ステップ
・　地域団体や地域事業者や地域で実行委員会を組成
・　ポイント設定等を行い、イベントを試行実施
・　検証等を重ねて持続可能なイベントに

●星空を眺めるジップライン

重点分野：森林整備／誘客／情報発信
ターゲット：市内及び近郊の親子、学校行事
取組み背景や目的
・　普段入る森林とは異なる空間を体験し、新たな発見を行うとともに、森林整備を並行して進める。
実施内容
・　大江山連峰鍋塚休憩所あたりでジップラインを設置し、昼間は森林の中で自然を感じてもらい、ナイトコースも実行し夜は星空の中を飛んでもらう。
・　ジップライン体験後に使えるように、千丈ヶ嶽までの道のりの中にオートサイト、尾根伝いにテントサイトを設置し、シーズンは朝に雲海を見に行けるように誘導する。
実施ステップ
・　エリア選定、設計等企画
・　クラウドファンディング等も含めた資金調達
・　プログラム組成

●里泊（さとはく）で森づくり体験＆食育！

重点分野：森林整備／誘客／情報発信
ターゲット：福知山市内外の児童・生徒・学生・大人
取組み背景や目的
・　まちづくり推進課が推進するファームステイと、森林に関する取組みを結び付けて、福知山市の魅力、地域の魅力を活かした誘客を行うポテンシャルを有している。
実施内容
・　地域が無理のない形で、里山交流泊（福知山市まちづくり推進課が推進するファームステイ）しながら、体験を行う。
・　なお、宿泊については、地域の公共施設リノベーションなども視野入れる。その場合でも地域と交流時間が持てるよう留意する。
・　体験については、既存の森林に関係する取組みを集約し、結び付ける。
実施ステップ
・　既存の森林体験プログラムの収集や森林に関わる主体への働きかけ
・　受け入れ家庭の軒数確保と受け入れ体制の確立

●親子で参加する１泊２日サバイバルキャンプ

重点分野：森林整備／誘客／情報発信
ターゲット：数組の親子
取組み背景や目的
・　１泊２日、森林の中での暮らし体験（サバイバル体験）を通じて、自然のありのままて学ぶとともに、夜に地域の人との交流の時間を設けて、地域の歴史や間伐・植林の大切さについて学ぶ。
実施内容
・　原則として自給自足による1泊2日の森林での生活を親子で過ごす。
・　食材は可能な限り現地調達（魚釣り、きのこ、植物など）
・　宿泊場所は可能な限り間伐材を現地調達してテントなどを作る。
・　自然の木々を集めて火を熾し、煮炊き等の調理を行う。
・　キャンプファイヤーの場で、地元の人から大江山の歴史の話、間伐や植林の大切さについて学ぶ。
実施ステップ
・　拠点等や地域団体を中心とした実行主体決定
・　夜の講和や講師役等について、地域への協力を得る
・　試行実施、その後、検証を経て継続実施

●自分事で関わる市民の鬼森プロジェクト

重点分野：森林整備／誘客／情報発信
ターゲット：福知山市内及び近郊の親子、学校行事
取組み背景や目的
・　市民や子どもたちが森林との関係を自分ごととして捉えてもらうための気軽に訪れて、伐採体験～木製品にまるまでの体験を行うことで森林愛の醸成を図る。
実施内容
・　伐採～木製品（例；木製鬼瓦など）になるまでの森林に関連することをまるごと体験できるプログラムを組成する。
・　将来的には、市民が気軽に関わることができる市民の鬼森エリア（仮称）を設定する。
・　なお、市民の方々が自分事として関わってくださることを目的として、組成段階からクラウドファンディングを活用して実施するなどの取組みとする。
実施ステップ
・　伐採～木製品までの体験プログラムの試行・実施
・　一定のファンが確保できた段階で、クラウドファンディングを行い市民の森づくりを行う

用語解説

用　語	解　説
あ行	
アクセス	施設や駅など目的地への連絡や接続の手段。 または、交通の利便性のこと。
エコツーリズム	地域資源の健全な存続による地域経済への波及効果の実現を目的として、資源の保護、観光業の成立、地域振興の融合を目指す観光の考え方。
SDGs	持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）。2015 年 9 月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された，2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。17 のゴール・169 のターゲットから構成され，地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っている。
か行	
皆伐	林木（林業の対象となる人工林や計画的に育てられている天然林の樹木）の伐採方法のひとつで、林木を一時に全部または大部分伐採すること。
茅場（かやば）	屋根を葺（ふ）くための茅を採取する場所。
間伐	混みすぎた森林を適正な密度で健全な森林に導くために、または徐々に収穫するために行う間引き作業。
極相（きょくそう）	植物群落（同一環境に生育している種々の植物が全体として一つの共同体としての特徴を示しているもの）遷移の最終段階。その地域の気候条件に最も適応し、長期にわたって安定した状態に達した段階。極盛相、クライマックスとも呼ばれる。
経済林	木材生産による収益を目標とする森林。
原生林	天然（自然）のままで、人の手が加えられていない森林。
さ行	
里地里山	都市域と原生的自然との中間に位置し、様々な人間の働きかけを通じて環境が形成されてきた地域であり、集落をとりまく二次林（解説参照）と、それらと混在する農地、ため池、草原等で構成される地域概念。
CI	地域の特性を明確にする広報戦略や理想的なイメージづくりを進める活動。
J クレジット	温室効果ガスの排出削減量や吸収量をクレジットとして国が認証する制度。本制度により創出されたクレジットは、経団連カーボンニュートラル行動計画の目標達成やカーボン・オフセットなど、様々な用途に活用できる。
獣害	シカやクマ、イノシシなど動物による農作物や林木などへの被害。

用　語	解　説
修験	山林で修行し、密教的な儀礼を行い、霊験を感得しようとすること。古来からの山岳信仰に神道・密教・陰陽道（おんようどう）などの諸要素が混成したもの。
循環型社会	生産、流通、消費、廃棄という社会経済活動の全段階を通じて、資源やエネルギーの面でより一層の循環・効率化を進め、不要物の発生抑制や適正な処理を図ることなどにより、環境への負荷を低減しようとする社会。
常緑樹林	1 年以上にわたって枯れない葉を持つ、スギ、ヒノキ、マツ、カシ、シイ、ツバキなどの林。
食害	シカやウサギなどが植林木の芽や葉を食べ、植林木の成長が阻害されたり、枯死したりする被害。獣害の一種。
植生	その場所に生育する植物の集団。
針広混交林	針葉樹と広葉樹が混じった森林。近年、生物多様性や水土保全等の多面的機能をより高度に発揮させるため、スギ、ヒノキなどの人工林の針広混交林化が進められている。
薪炭林	薪や炭に利用するための木材等を採取する森林。
生物多様性	遺伝子・生物種・生態系のレベルで多様な生物が共存していること。その経済的価値に加えて、多様性そのものに固有の価値があるとされる。
ゼロカーボンシティ	福知山市では、世界的な気候変動対策や脱炭素社会、SDGs の動きに呼応し、2050 年までにCO_2排出量実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」を令和 3 年 2 月 26 日市議会の新年度予算発表時に表明。
遷移（せんい）	ある場所の植物群落が長い年月の間に次第に別の群落に変わってゆくこと。植物群落は人の手が加えられることや自然災害などがなければ、極相（解説参照）へ向かって遷移を続けていく。
た行	
棚田	山地などの傾斜地に、階段状に作った水田。千枚田とも呼ばれる。
脱炭素化	二酸化炭素をはじめとする人為的な温室効果ガスの「排出量」※ から、植林、森林管理などによる「吸収量」※ を差し引いて、合計を実質的にゼロにすることを意味する。※人為的な
テレワーク	情報通信技術（ICT = Information and Communication Technology）を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方。
稚樹	天然生の小さな樹木のことで、通常 30～200cm 程度のものをいう。
地産地消	地元で生産されたものを地元で消費すること。食料に対する安全志向の高まりを背景に、消費者と生産者の相互理解を深める取り組みとして期待されている。また、輸送燃料の低減により二酸化炭素排出量削減にも効果がある。

用　語	解　説
超塩基性岩	二酸化ケイ素の含有量が重量で 45 パーセント以下の火成岩（マグマが冷却・固結してできた岩石）の総称。本計画区域では大江山連峰の蛇紋岩やカンラン岩が代表的。
田楽	田遊び・田植え祭り・田植え踊りなど、田に関する民俗芸能。
トレイルラン	トレイルとは未舗装路を示し、未舗装路を走ること。
特用林産物	森林から生産される産物のうち、木材以外のきのこ類、クリ、タケノコ、ワサビ、山菜、木炭、竹、桐などの産物。
都市農村交流	地域の活性化を進めることを目的として、農作物の収穫・調理体験、農作業体験、農家民泊などを通じて農村住民と都市住民の交流を進めること。
な行	
二次草地	その土地本来の自然植生が、災害や人為によって破壊され、その後に形成された草地。
二次林	その土地本来の自然植生が、災害や人為によって破壊され、その後に形成された森林。
燃料革命	昭和 30 年頃を境に、家庭用燃料が薪や炭から石油やガスに急速に転換されたこと。
は行	
非財務情報	企業が投資家や株主、債権者などに対して開示する情報のうち、財務諸表などで開示される情報以外の情報。企業が定期的に市場に開示する各種文書、例えば有価証券報告書や CSR 報告書、統合報告書、サステナビリティレポートなどで報告される情報
ビジターセンター	来訪者に対して地域の自然資源や歴史文化資源などについての情報や解説を提供する施設。
標準伐期齢	森林の生産力（森林の有する機能）が高度に発揮される林齢として、森林計画区ごとに定められている伐期齢。
複合型農業経営	米などの単一品目だけを生産するのではなく、付加価値の高い品目を多品種少量生産し、収入の拡大と安定化を目指す農業形態。
分収造林	森林を所有する者、造林を行う者、費用を負担する者の2者または3者で契約を結び、森林を造成・育成し、伐採後に収益を一定の割合で分け合う制度。
便益施設	観光の振興や公共の便益の増進を目的として設置される、駐車場、トイレ、休憩施設などの施設。
ま行	
木質エネルギー	木材を原料としたエネルギー。
モデルフォレスト運動	京都府では平成 17 年に「豊かな緑を守る条例」を制定するとともに、平成 18 年にモデルフォレスト運動の推進主体となる『社団法人京都モデルフォレスト協会』を設立して、府民ぐるみで京都の森林を守り育てるための様々な取組を推進している。

用　語	解　説
モニタリング	継続的に監視・観察等を行うこと。 本計画では、資源に関する調査を継続的に実施して、資源の状況や変化を把握することを意味する。
山元立木価格	山に生育している林木の価格。立木として販売した場合に森林所有者が得られる木材1m^{3}当たりの金額。
ら行	
稜線	山の峰と峰を結んで続く線。尾根。
林種	森林の成立状態による区分。民有林では人工林、天然林、伐採跡地、未立木地、更新困難地、竹林に区分される。
林床植生	森林の地表近くに生育する背の低い植物の集団。草本類やコケ類、および低木など。
林齢	林分（林相がほぼ一様で、隣接する森林と区別できる条件を備えた森林の単位）の年齢。
ロールモデル	具体的な行動や考えを学習・模倣する対象となるモデル。
ワーケーション	「ワーク（work）」と「バケーション（vacation）」を合わせた言葉で、旅行や帰省中の一部の時間を仕事に当てるといった働き方。

「福知山千年の森づくり基本計画」改定に係る意見交換会参加者名簿

●委員等

役割	氏名	役職等
委員	中尾　誠二	福知山公立大学　地域経営学部　教授
委員	水口　一也	毛原の棚田　ワンダービレッジプロジェクト　代表
委員	西山　周三	福知山産業支援センター　ドッコイセ！biz　センター長
委員	奥田　友昭	サードプレイスツーリズム協議会　代表
委員	土田　真奈見	エスペック株式会社　サステナビリティ推進室　環境管理部長
委員	赤松　武司	大江山連峰トレイルクラブ　会長
委員	入江　一郎	福知山市スポーツ推進委員　委員長
委員	鈴木　海峰	大江観光株式会社
委員	木村　充恵	市民公募委員
アドバイザー	山口　悟	京都府中丹広域振興局　農林商工部　農商工連携・推進課 参事
アドバイザー	福田　誠	一般社団法人 森の京都地域振興社（森の京都 DMO） 地域開発部長
オブザーバー	増田　真	福知山市　産業政策部　産業観光課　地域戦略マネージャー

●事務局

福知山市　産業政策部　農林業振興課

福知山市　地域振興部　大江支所

福知山市　地域振興部　文化・スポーツ振興課

㈱地域計画建築研究所（アルパック）

市 民 憲 章

幸せを生きる

わたしたちは、ふるさと福知山を“幸せの舞台”にします。
水清い由良川、緑濃い山々、行き交う人々。
生き生きとして、伸び伸びとしたふるさとをつくります。
わたしたちは、ひとりひとりの中に
人生を自由で美しいものにする力を持っています。
そのわき出る力を集め、四季を愛し、命を尊び
共に幸せを生きます。

平成3年4月1日制定

令和4年3月発行
福知山市　産業政策部　農林業振興課
〒620-8501　京都府福知山市字内記 13 番地の 1